

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターぶれも・しすい		
○保護者評価実施期間	令和6年12月1日		～ 令和6年12月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	73名	(回答者数) 68名
○従業者評価実施期間	令和6年12月1日		～ 令和6年12月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数) 11名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・保護者同席で個別の支援(療育)と小人数グループが基本のスタイルなので、子どもや保護者と密に連携が取れている。	・子どもが「今日は楽しかった」と笑顔で満足して帰ることが出来るように、その子どもに合わせた療育内容を考えて提供している。 ・小集団の活動では、異年齢の子どもともゲーム等を通じてルールの理解やソーシャルスキルトレーニングに取り組んでいる。	・今後も子どもや保護者と密に話をする時間を大切にしている。 ・保護者の話を聞く姿勢として「子ども達・保護者の方一人一人の声に耳を傾けていく姿勢」を大切に共に考えていく。
2	保護者参加型の支援をしているので、保護者の話を聞く時間を大切にしている。子どものやりたい事や興味のある事を共有できて療育に活かすことができる。	・療育中に保護者とも積極的に療育内容を共有し、家庭でも継続して伝える内容伝える。	・療育時間内だけでは時間が足りないことから、事業所内相談を活用して、幅広く相談を行う。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・事業所の立地場所が駅から遠く、バスやタクシーを利用しないと来ることができない。	・バスの本数が年々減少するのは否めない。	・電車やバスを利用する利用者には、バスの時間に合わせた療育時間の提供をする。
2	・短時間の療育なので、生活全般の様子がみられない。	個別療育が1時間単位となる為、食事場面、着替え場面等の把握が難しい。	・食事場面、着替え場面等の把握は、保護者と密に連携を取り、報告していただく。
3			